

パランプセスト

並木道に降る
木の葉に
心が動くのは
自分がいま
永遠を落としたから
幹からも
空からも
離れた私が
ベンチを発つ
泣かなくてもいい
そのために
泣けなくなるなら
ブツカカバーの
やぶれた背中に
魚の臭いのする
セロハンテープを
はる
はる
冬の窓ガラスに
頬をあてると
これから
ちぎれる海が
内耳で
ぐずぐず言いだす